『詩経』国風における中心歌謡型の文化心理学的研究

浜村良久

(防衛大学校)

キーワード: 詩経、中心歌謡型、周辺歌謡型

A cultural psychological study of major lyrics types in “Shijiao”, the ancient Chinese folk songs.

Yoshihisa HAMAMURA

(National Defense Academy)

Key words: Shijiao, major lyrics type, minor lyrics type

1. はじめに

『詩経』国風は主に西周から春秋時代にかけて作られた中国黄河流域の民謡160篇の歌詞を集めたものである。収録地域は周南、召南、邶風、鄘風、衛風、王風、鄭風、齊風、魏風、唐風、秦風、陳風、檜風、曹風、豳風の15カ国で、国別に収録されたのは各国の民謡に特徴があったからであろう。従来から、鄭風に恋愛歌が多く秦風は素朴など各国の詩の特徴は論じられてきたが、内容の解釈には異論が多く、音楽も伝わっていないので、それ以上のことは明らかでなかった。しかし、音楽の違いは詩の構造に表れるはずで、構造の知見は詩の解釈と無関係に共有できるはずである。そこで本研究では詩の構造分析を手がかりに中国古代歌謡の地域文化差を明らかにし、それに基づいて民謡の文化心理学的分析を行う。

2. 国風歌謡の構造分析

国風には4句の繰返し構造が多い。たとえば、周南「樛木」
南有樛木、葛藟荒之。樂只君子、福履將之。
南有樛木、葛藟荒之。樂只君子、福履將之。
南有樛木、葛藟荒之。樂只君子、福履成之。
では、各章の第1句と第3句は同じ句を繰り返す反復句で、第2句と第4句は各章が一字違いの非反復句である。そこで、各章が全く同じ反復句をA、非反復句をBで表す。すると上記の詩はA B A B、A B A B、A B A Bと表される。

また、鄘風「相鼠」第1章も4句からなり
相鼠有皮、人而無儀。人而無儀、不死何為。
のように第2句と第3句に同じ句が続いている。このように直前の句と同じ句を繰り返すものを尻取り句と呼び、Cと表記する。すると上記の詩はB B C Bと表される。本研究ではこのように国風の詩をA、B、Cで表記したものを歌謡型と呼ぶ。

表1は詩の各章冒頭4句の歌謡型を調べ、国ごとに最も多く見られる「中心歌謡型」を灰色で示したものである(複数の歌謡型を持つ詩もあるので合計は100%を越える)。

表1 各歌謡型を含む詩の割合(%)

		周南	召南	邶風	鄘風	衛風	王風	鄭風	齊風	魏風	唐風	秦風	陳風	檜風	曹風	豳風
四句構造 以上	ABAB	63.6	42.9	21.1	30.0	30.0	50.0	28.6	18.2	14.3	25.0	40.0	40.0	25.0	75.0	14.3
	BBBB	36.4	35.7	63.2	50.0	60.0	10.0	28.6	45.5	28.6	8.3	30.0	50.0	25.0	50.0	57.1
	BBAB	9.1	21.4	36.8	30.0	10.0	10.0	23.8	18.2	28.6	41.7	30.0	30.0	50.0	50.0	14.3
	その他	18.2	14.3	26.3	10.0	10.0	30.0	23.8	9.1	14.3	16.7	10.0				28.6
二句または三句構造		9.1	28.6				10.0	4.8	18.2	14.3	8.3			25.0		14.3

A B A B型は周南、召南、王風(周の3国)、秦風、曹風の中心歌謡型なので周歌謡、B B B B型は邶風、鄘風、衛風(殷の故地3国)、齊風、陳風、豳風の中心歌謡型なので殷歌謡、B B A B型は唐風(夏の故地)、檜風の中心歌謡型なので唐(おそらく夏)歌謡と考えられる。その他の型は例が少なく地域に限られているので地方文化であろう。このように歌謡の構造分析を行うと、夏・殷・周の歌謡文化の特徴と歌謡文化圏、西周～春秋時代の各国の歌謡文化を推定できる。

3. 中心歌謡型仮説と周辺歌謡型

次に歌謡型と詩の内容の関係について検討する。表2、表3

はそれぞれ白川(1990)、加納(1982)に基づき、詩の内容と周3国(周南、召南、王風)、殷3国(邶風、鄘風、衛風)、唐風・檜風の詩の「第1章の歌謡型」との関係性を調べたものである(2つの先行研究を用いたのは研究者により詩の解釈が異なるからである)。いずれの解釈でも、愛と辛さの詩は主に周ではA B A B型で、殷ではB B B B型で、唐・檜ではB B A B型で歌われている。それに対し、歌垣や祝頌の詩はA B A B型が多く、叙事詩はB B B B型が多い。その他の内容の詩では前述の地域的特徴が見られなくなる。おそらく中心歌謡型とはその国の民衆が愛と辛さを歌う歌謡型で、中心歌謡型の共有が文化的アイデンティティの共有なのだと思う(中心歌謡型仮説)。その国の中心歌謡型以外はみな周辺歌謡型で、詩ごとに内容に即した歌謡型が選ばれるのであろう。

表2 詩の内容(白川, 1990)と第1章の歌謡型の関係

	愛情			辛い感情			歌垣			祝頌			叙事詩			その他		
	周	殷	唐・	周	殷	唐・	周	殷	唐・	周	殷	唐・	周	殷	唐・	周	殷	唐・
	三	三	檜	三	三	檜	三	三	檜	三	三	檜	三	三	檜	三	三	檜
ABAB	3	3	1	5	1		1	1		4	1	1				4	4	2
BBBB		6			6					1			7			5	4	1
BBAB	2		4		1	3										1	4	
その他	3	1	2	1	1			1	1	4			1			3	2	1
合計	8	10	7	6	9	3	1	2	1	8	2	1	1	7	0	13	14	4

表3 詩の内容(加納, 1982)と第1章の歌謡型の関係

	喜び			悲しみ			苦しみ			戦争			恋愛			結婚		
	周	殷	唐・	周	殷	唐・	周	殷	唐・	周	殷	唐・	周	殷	唐・	周	殷	唐・
	三	三	檜	三	三	檜	三	三	檜	三	三	檜	三	三	檜	三	三	檜
ABAB	3		2	5	3		2	1		1		1	1	4	2	8	3	1
BBBB	1	2	1	2	8			3		2			4	5			7	
BBAB	1	1	2			1		3	3			1	3	3	5		3	1
その他	2		1	2	1			1	1	1			5	2	1	3	2	2
合計	7	3	6	9	12	1	2	8	4	2	2	2	13	14	8	11	15	4

表1からは魏風と鄭風の文化圏は特定できない。しかし、(表には示していないが)魏風の愛と辛さの歌はみなB B A B型であるので、中心歌謡型仮説から推論すると、魏は唐文化圏に属するのかもしれない。また、鄭風はA B A B型とB B B B型が同数であるが、A B A B型に辛さの詩が見られないので周文化圏ではないと考えられる。

4. 終わりに

本研究では中国の古代歌謡の構造分析に基づき歌謡文化圏を明らかにし、中心歌謡型仮説を提唱した。これらの歌謡型は英国や朝鮮の民謡・童謡などにも見られるので、今後、古代中国以外の歌謡文化についても検討する必要がある。

また、『詩経』国風については、上記以外に各歌謡型の起源と基本型、特徴、音韻規則、歌謡型の時代による変化、文化の融合による歌謡型の変容など種々の文学的知見も得られている。これらについては別の場で論じることとする。

引用文献

白川静訳注『詩経国風』平凡社, 1990

加納喜光訳『中国の古典 18 詩経上』学習研究社, 1982